

～男女共同参画社会の実現に向けて～

モア MORE

さって ひと ひと
幸手市女と男の情報紙
第10号 2005

モア(MORE)とは、より多く、よりすばらしいものにと、さらに女と男がより豊かに、と願いを込めて、この情報紙を命名しました。



題「雨晴海岸の旭日」 小谷恵昭さん(市内惣新田在住)

ぼくのおとうさん

おとうさんて、すごいんだよ。
大きいシヨベルカーに
のれるんだよ。
クレーン車にものれるんだよ。
これれたトラックだって
なあせるんだよ

まい日、よるあそくまで
はだらいているおとうさん。

おとうさんの手は、
あぶらがついていて
まっくるなんだ。

ぼくは、そんなおとうさんの手が
大好きなんだ。

おとうさん、
「いつも、あじがとて」

ぼく、こんど
おとうさんがおじいちゃんとしていてるころ
みてみたいなあ。

緑台小学校

一年 佐藤 太星

(平成十七年三月現在)

モア創刊から10年

男女共同参画社会の実現を目指して

男女共同参画社会の実現に向けて歩みつづけてきた「モア」、平成8年3月に創刊されてから今年で第10号を発行することができました。

幸手市男女共同参画推進協議会委員の編集により発行されてきた「モア」を振り返り掲載された特集記事などを紹介します。

創刊号（1996年3月発行）

【特集 男女共同参画社会をめざして】

1979年国連が「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」を採択後の世界、日本、埼玉県、そして幸手市の動きを紹介しました。

第2号（1997年3月発行）

【特集 大すき人生！】

イキイキ生活していますか？性別で不満に思っていることはありますか？などを市民の方にインタビューし紹介しました。

第3号（1998年3月発行）

【特集 ジェンダーチェック】

市民100人にジェンダーチェックをお願いしました。

生活自立度チェック、思い込み度チェック、「あれ？」度チェックをしていただき、日頃、何気なく性別で役割を決めていないかを確認していただきました。

※ジェンダーとは、本来の生物学的な性差（セックス）ではなく、「女らしさ、男らしさ」というように女はあるいは男はこうあるべきものとされた社会的、文化的に作られた性差のこと。

第4号（1999年3月発行）

【特集 明日に向けて自分づくり～女男と介護～】

主に女性が中心に行っている在宅介護、そのような中、実際に介護を行っている方にインタビューして、男女共同参画による介護のあり方を探りました。

第5号（2000年3月発行）

【特集 共に生きる明日を見つめて～女男と家族～】

長い歴史の中で培われてきた日本の家族形態。近年の少子・高齢化にともない社会環境は急速に変化する中、多様化する価値観と共存できる新しい家族のあり方を探してみました。

第6号（2001年3月発行）

【特集 DV（ドメスティックバイオレンス）】

今まで、夫妻間だから、家族だからといって見過ごされてきた夫や恋人などパートナーから受ける身体的、精神的、性的、社会的な暴力。

この大きな社会問題になっているDVの実態や対処などについて紹介しました。

第7号（2002年3月発行）

【特集 第2次幸手市男女共同参画プラン】

平成13年4月第2次幸手市男女共同参画プランが策定され、その概要について紹介しました。

第8号（2003年3月発行）

【特集 なぜ、今、男女共同参画社会】

男女共同参画社会の実現は21世紀のわが国にとって、重要な課題となっています。

なぜ、わが国では男女共同参画社会の形成が必要なのか、どのような社会なのか、を解説しました。

第9号（2004年3月発行）

【特集 With Youさいたま】

男女共同参画社会の実現に向けた活動の拠点施設「With Youさいたま」

この施設で行われている情報収集・提供事業、自主活動・交流支援事業や各種相談事業を紹介しました。



市民の方の芸術作品と市内小学生の詩を紹介し、「モア」の表紙を飾っていただきました。

これからも、男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな情報を提供してまいりますのでよろしくお願いいたします。

ひとひと 女と男の共生セミナー 「平和と家族」

「女と男共に広げよう平和の心ーあなたにとって大切なことは…?ー」をテーマに平成16年11月12日から4回コースでセミナーが開催されました。

日本女性会議参加報告の後、自己開発学習コーディネーターの金子朝子さんをお迎えして「平和と家族」について講義をしていただき、延べ61人の参加がありました。



家族に関わる問題点をブレインストーミングで出しました

第1回「家族の意味は？」では、家族の定義や家族関係等を説明すると共に、互いが助け合って生きるための夫婦、親子、きょうだい関係について話されました。その後3つのグループに分かれ自分の長所7つ以上を挙げ、自己紹介及び他己紹介をして「家族に関わる問題点」をブレインストーミング*で出し合い発表しました。

第2回「日本の家族の歴史は？」では、縄文時代から現在に至るまでの日本の歴史の中での家族形態と意識の変化等を憲法に触れながら解りやすく話されました。その後グループに分かれて現在の親子関係について意見交換がなされました。

第3回「家族と人間関係を考える」では、【家族の



男女共同参画推進協議会委員によるロールプレイング

中の人間関係～これからの家族関係～)をテーマにした当協議会委員によるロールプレイング*を観た後、各グループ毎に感想等を述べ合い発表しました。

また、社会学者パーソンの社会化の過程に沿って講義がなされ、女と男は性的に違うことをよく理解した上で、夫と妻とは互いに認め合うことと、子どもは未成熟であるからこそ夫妻が子育てをするのが家族の責任であると強く話されました。

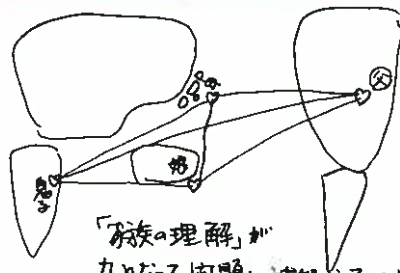
第4回「家族について理想を話し合おう」では、これまでの講義を振り返り、理想的な家族について各グループでブレインストーミングをして、理想的な家族を絵で表現しました。そこには家族が最小単位の福祉集団であり、ひとり1人の人権が守られ、喜びも悲しみも互いに解り合い、離れて暮らしていても助け合える理想の家族が描かれました。最後に参加者全員が輪になり感想等を述べ合い、「今日の日はさようなら」の歌を合唱し、和やかに閉会しました。

一方的な講義ではなく、自らを表現する自己開発(おとなの学び)の金子朝子さんのセミナーに回を重ねる度に受講生が打ち解け共に学び合い、「平和と家族」について理解を深め、自分自身への気付きのきっかけともなった素敵なセミナーでした。

第4回「家族について理想を話し合おう」において、受講生たちがこれまでの講義を振り返り、理想的な家族を絵で表現し発表しました。



▲家族のつながりをイメージした絵



▲世界地図の中に家族の絆をイメージした絵

*ブレインストーミング
自由討論方式で多くの意見を出し合い、独創的なアイデアを引き出す集団思考法

*ロールプレイング
役割を与えて演じさせ、それを通じて問題点や解決法を考えさせる訓練方法

★今回のセミナーで教示された家族関係のあり方を表現した詩を紹介します。

作者：カイル・ジブラン

共に歌い、共に踊り、共に楽しみなさい
 しかし、互いに相手を独りにさせなさい
 あたかもリュートの弦が、
 それぞれでも同じ音を奏てるように
 一緒に立っていないさい
 しかし、近づきすぎないように
 なぜなら、神殿の柱は、それぞれ離れて立っているし
 檜の木と杉の木は、お互いの陰では
 育たないのですから
 いつも一緒の二人の間にも、自由な空間をおきなさい
 そして、そこに天上の風をそよがせなさい

★セミナー受講者の感想を紹介します。

今まで家族の『個』は考えたことがありませんでしたが、これからは『1人の大切な人』として尊重しお互いを認め合っていきたいと思います。先生が『私の子ども達夫婦とは、友達です』とおっしゃった言葉がほんとうに印象的で私もそんな人になりたいと思いました。先生から教えていただいたことを考えながら、これからも夫と小学校6年の息子と、いい関係でいられたらと思います。

(A・Fさんから)

家族の数だけ理想があり価値観もずい分変わってきたようです。親子関係などもだんだんと難しくなっていくような気がします。

(T・Nさんから)

「生きやすい生き方」 男女共同参画推進講演会

平成16年8月28日(土)、北公民館において、男女共同参画推進講演会が開催されました。本年度の講師に、俳優、シャンソン歌手、また最近では作家としてもご活躍の美輪明宏さんをお迎えし、『生きやすい生き方』をテーマにご講演をいただきました。

当日は、美輪さんの講演を待ち望んでいた大勢の方が早くから訪れ会場はすぐに満席となりました。

講演に先立ち、弘前市の0才からのジェンダー教育推進事業実行委員会作成の「赤いりんごと青いりんご」の絵本を朗読しました。それに合わせステージ上では、8名の委員が手作りのイラストを紙芝居ふうに表示しました。

その後、講演が行われ、美輪さんは最近の世の中の言葉の乱れについて語られました。

メディアが発達し映像文化が進化するにつれ、簡単に映像が取り入れられるようになったこと、文字や本を読まない時代になってしまったこと



「美しい心を育みましょう」と語る美輪さんとに疑問を投げかけました。読書をする、想像力が発達し、思いやりも育つことになるとも語られました。日本には聴いているだけでその情景が浮かんでくる美しい情緒ある歌や音楽が沢山あることを説明され、アカペラで「ふるさと」や「おぼろ月夜」を歌って下さいました。『美しい物にたくさん触れ、美しい心を持って人生を楽しみましょう。子育てでも、仕事でも、生きがいをたくさん持つと幸せになれる。幸せとは、感謝する心を忘れないこと』と語るその言葉に、美輪さんの力強い生き方を感じたような気がします。



「赤いりんごと青いりんご」の朗読風景



0才からのジェンダー教育推進事業実行委員会編集・発行の絵本「赤いりんごと青いりんご」の表紙

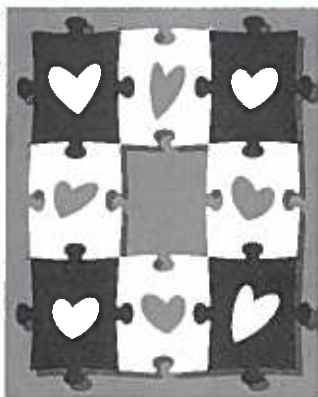
「集い、語り、ともに拓こう!新たな関係」 日本女性会議参加報告

男女共同参画社会の実現を目指し、平成16年10月22・23日、愛媛県松山市において『第21回日本女性会議2004まつやま』が開催されました。

全国から約3000人が集まり「集い、語りともに拓こう!新たな関係(かたち)」のテーマのもと討議しました。

まず基調講演では、「北京会議から10年～行動綱領はどのように活かされてきたか～」の報告がありました。

ジェンダー問題は、まだまだ根強く課題は多く残されていますが、女性のエンパワーメントの向上により男女差、若者と高齢者の差が急速に縮まりつつあります。



日本女性会議2004まつやまの
シンボルマーク
(みんなの気持ちが一つにつながる
イメージをパズルで表現しています)

シンポジウムでは、高校生以上100人の学生も参加し「男女共同参画社会の今、そしてこれから」をテーマに共に語り新たな関係を模索しました。

分科会では、平和・家族・女性の健康・女性への暴力・条例など15項目の分科会が開催され、21世紀の新たな社会づくりは、男女共同参画から始まることを呼びかけました。

記念講演では「女性と平和～わたしにできること～」と題し、劇作家・演出家・女優・歌手の渡辺えり子さんが話されました。「この地球は命の連鎖です。だから戦争は絶対あってはならない」と強く思い、武力ではなく、言葉の力で戦うこと、訴えていくことを自分の信念に持ち、大人の役割を正しく認識して、義務と責任を担うべきだと語られました。

そして、最後に2004まつやま大会宣言。「一人ひとりが自立し、その個性のままに輝ける社会、多様な生き方を認め合い支え合う社会を創ります。誰もがいきいきと生きることでできる真の男女共同参画社会を築きます。そして新たな関係(かたち)を力強く次の世代へ引き継ぎます。」と参加者全員で宣誓しました。

輝きコーナー我が家の場合

今回ご登場いただくのは中川崎にお住まいの、小室良平さん・とし子さんご夫妻です。お2人は日本蕎麦屋を経営されています。落ち着いた雰囲気店内で、楽しいお話の数々を伺いました。

農業に関心の深い良平さんのこだわりは、「自分で安心してそしておいしく食べられるもの」をモットーとし、長野、福島、茨城他7軒の農家から1年分の蕎麦の実を仕入れ、野菜は自家製の野菜を主に使用しておられます。また、野菜によせる愛情もたっぷり、丹精こめた珍しい野菜も見せていただきました。常に自分で納得したものだけを使用し開店して今年で10年目、お店のことから家事、育児や農作業など、家族全員でお互いに協力し合いながら行っているとのことで、理想的な家族の様子がよくわかりました。歯切れの良い語り口に思わず引き込まれながら、蕎麦談義の後は、ご趣味のクラシックカーのお話を伺いました。良平さんの愛車は1957年に製造された「日産オースチンA50」という乗用車、ビートたけし主演の映画「血と骨」では愛車とともにご出演され、また、市民まつりで毎年恒例となりま

したクラシックカーフェスティバルでは実行委員代表としてご活躍されています。としさんもクラシックカーが大好き、20代～90代と幅広い年齢層の仲間達と同じ趣味に夢中になれることや多くの友だちと出会うことができるすばらしさを話して下さいました。お話を伺っていていつもお互いに相手を認め合い、思いやり「共に働き共に楽しむ」自然のうちに良い関係を築いているのを感じました。

「今後も、農業にも蕎麦造りにも、そしてクラシックカーにも通ずる先人の知恵を大切に生きていきたい」と良平さんご自身の信念を語って下さいました。

これからもますますお元気で夢に向かって羽ばたいてほしいと思いました。



蕎麦へのこだわりを笑いを交えながら話して下さいました

ときめき感動の時 『出会い』

「あなたにとって大切なことは…？」と聞かれたら、私は、あれもこれもと答えるでしょう。そして、その中の一つには、掛け替えのない人の誕生日があります。12年前の銀杏色づく季節に初めて出会い、小さな命を守るために愛情の全てを伝えてきました。でも逆に、優しさや思いやり、いたわり、笑顔、チャレンジ精神など、たくさんのもをもらっていた気がします。中でも多くの人々との『出会い』は、一番のプレゼントです。

あなたがいたから出会えた温かい人々が周りにいます。本音で話し合える友人、目標に向かって一緒に進んでいける仲間、ほっとできるご近所の人、そしてこれから出会う人々。本当は、名前も知らずにただ通り過ぎるだけの関係だったかも知れません。

でも、今こうして素敵なお付き合いをさせて頂いているのは、最高の宝物です。

嬉しい時には共に喜び、辛い時には支えてくれてありがとうございました。

「人は独りでは生きていけないから、人と言う字は支え合っている」と、聞いたことがあります。その言葉をいつも心において 感謝と思いやりの気持ちを大事にしていきたいと思っています。

たった一度の人生での『出会い』は、限られてしまうでしょう。前を見て積極的に人と関わっていききたいものです。そして、せっかく出会えた人々を大切に、一緒に過ごせる時間をこれからも楽しんでいけたらと思います。



用語の知識

このコーナーでは男女共同参画に関連する用語について、解説します。

メディア・リテラシー

メディアの受け手が必要な情報を手に入れ、メディアを主体的に読み解くとともに、自分で考え、自分の意見を発信する能力を言う。マス・メディアからの情報を無批判に、ただ受動的に受け止めるだけでなく、情報を積極的に解釈したり批判する力を育て、メディアとの緊張関係を持って、メディアそのものを変えていくことが必要。

ILO156号条約

男女労働者、特に家族的責任を有する労働者の機会均等及び均等待遇に関する条約。

1981年(昭和56年)にILO(国際労働機関)総会で採択され、日本は1995年(平成7年)6月に批准した。家族的責任を、男女労働者が共に責任を負い、そのことにより差別されることなく、仕事と家庭と両立できるようにと具体的な視点を示されている。労働時間の短縮、転勤に関する配慮、パートタイムとフルタイム労働者の平等、育児休暇、介護休暇を男女共に認めることなどが盛り込まれています。

2005年3月1日発行(年1回発行)第10号/幸手市総務部人権推進課発行 幸手市男女共同参画推進協議会編集



表紙の写真

小谷恵昭さんは東写友会にてカメラ撮影を始めてから10年のキャリア。小谷さんの作品は県展に4回入選し、また、文芸幸手に度々紹介されるなど高い評価を受けています。今回の作品は、能登半島の雨晴海岸(あまはらしかいがん)にてフェーン現象で現れた朝日を絶妙なタイミングで撮影した貴重なものです。

● ● 編 ● 集 ● 後 ● 記 ● ●

「モア」第10号をお届けいたします。おかげさまで、初回発行から10年目の春を迎えることができました。

これまでの歩みを大切に、共に輝ける男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな情報をお届けしたいと思います。ご意見、ご感想を事務局までお寄せください。

これからも末永く「モア」をご愛読いただきますようお願いいたします。

